

それは非常に安心しました。もう一つは、熊本弁を聞いてみると、非常に心よい音調があるんですね。これを言っても熊本人は信じてくれませんがね。熊本の人には東京弁が大変いいものだと思っただけですが、私をはじめ大甲橋のそばで受験勉強しながら感じたのはそうじゃなくて、非常に古風な表現がはいついて、しかも音楽的だということ、こういう言葉が話中人達の中に住めたらさぞかしよからうと、ということ、私は本当に五高にはいらなかったんです。ですが、非常に残念なことに一次試験はおつたんですが、二次の面接でちょっと不意なことを言いました、それで落ちました。三月の末だったと思います。もう熊本は非常に温かくて春がまさにたけなわになるうとする時でした。その時、私は一人満洲にもどったんですけど、その時釜山から汽車に乗って北へ行くにしたがってどんどん寒くなり、汽車の窓から見える風景が荒涼となってきたときは非常につらくて、熊本から遠ざかるにしたがって二度とこれるかどうかわからないという、非常に沈痛な思いで、索漠とした思いが強く記憶に残っています。

だから、私の最初の熊本のイメージは非常にいいんです。夏目漱石が「森の都」といわれる熊本」という書き方をしていますが、文字どおり森の都だと思います

りする開発は得策ではないと思いますよ。

例えば、私達はよく地方の都市に行きますけど、何々銀座なんという名前のついているところが一ぱいありますね。それは良くないと思いますよ。つまり熊本のような都市は、熊本らしい都市で、再び「森の都」にかえすことがよいと思います。

東京や大阪みたいな大都会ですと都市の改造なんてできませんけど、熊本ですと、例えば郊外に高層建築と公園を結びつけるような町づくりが可能ですし、交通手段なんか最新の地下鉄みたいなものにして、日常の車のラッシュを一日も早く解消させる。東京なんか私権が強いから非常に困難なんですけど、熊本あたりではそれができると思いますよ。少し金をかけるとそういう新しい田園都市を開発できるし、まわりにあれだけの平野があるんですから、緑の中に点々と家があるような形もあって道路をよくすることはステキだと思いますね。

熊本県にはいったら風光が一変したというように熊本がみどりになっているのはよいと思いますね。イスラエルが砂漠の中に緑の畑をつくって三十年、いきますと本当に二十年前の砂漠が緑の畑になっているんです。緑の園になっていま

ね。おそらく、僕なりに多感な十六、七歳の頃に数週間を熊本で過ごしたということが、それなりに熊本のイメージとなっていると思います。

少年兵の生活

その次は兵隊です。本籍が熊本だったもんですから、学徒動員で西部十六部隊にはいらまして、熊本の砲兵は特にあらいと聞いていたんですけど、言葉が音楽的どころか、ものすごくいいですね。その言葉は私話せないんですが、話せないとおなごのような言葉を使うな、と非常にどなられたり、なぐられたりして、だから五高をうけたときの、音楽的な熊本の印象がどっかへいっちゃいましてね。二言目には「ぶち殺すぞ」とか、「打つけん」とか、なんでもそういう表現で、私をはじめ聞いたときの熊本弁は、相手のことを言うときも、「ああた、なんぼしてくだはいよ」とかいい言葉だったんですが、兵營の中ではそうじゃなくて、ものすごくあらいい言葉で驚かしてね。しかし、あのあらいい言葉を一緒にしゃべり、そして少年兵生活を馬小屋のなやにわらわらして暮した仲間とは今でもつきあっています。

東大の法学部にはいったばかりの時でした。だから、熊本とある意味で親近感といいますが、やさしい印象を持った

熊本なんかでこそ、そういうことができるんで、その田園都市の東には阿蘇があるというんだったらこれはもう、観光の面でもすばらしいし、日本の中で最も新しい形の人間と自然の調和した、しかも生産力の高い住い、居住というものが可能じゃないかと思えます。

まえからそういうことをしきりに申し上げているんですけど、熊本には熊本のいろいろな難しさがあるんでしょね。だから、銀座なんというのは熊本の誇りを傷つけることですからやめたらどうですか。「上通り」とか「下通り」とか、「三年坂」なんていうのはいい名ですね。私は熊本の方が県の建設のためにモデルを求めるとしたら、東京とかカリフォルニアとかいうところではなく、オランダとかデンマークとかですね。デンマークの田舎なんかというのはすばらしいですよ、しかも生産力は非常に高い、みんな豊かですし、ああいうところに範を求めるべきではないかと思えます。

進取の気性

熊本は明治以来、進取の気性があるといわれているし、天草の人達は貧しさのゆえかどうか非常に海外に進出していますが、もっと正統な意味において熊本の青年達が外国に出ていくのがいいと思

のが受験のときで、熊本は自分の故郷だなあと思ったのが少年兵でいたときです。それで私は肥後らしいイメージを正確に把握したんです。それで演習で江津湖畔とか、六嘉の緑川べりや、御船から大矢野原に登っていく山道とか、それから峠ごえて河内に行くとか、演習であちこち行ったのを今でもいい思い出だと思っ

滔天の研究(三十三年の夢)

河内の場合でいえば、漱石の草枕なんか熊本の兵隊時代に読みかえしています。それが、それからと熊本との縁は私が宮崎滔天の研究をはじめたからです。「三十三年の夢」を更訂するから手伝ってくれということ、滔天の息子さんの宮崎龍介さんから相談を持ちかけられたときは、非常に喜びました。竜介さんが色々筆を入れて私が全部更訂しました。例えば、河内の前田案山子というのは滔天の親友ですが、一説としては、草枕のモデルになった前田案山子のお嬢さん、あのナコイのお嬢さんは滔天夫婦だったという説もありますし、事実、滔天夫婦は前田家から出ているわけです。

そんなことで一層熊本との縁が強くなりました。兵隊時代に熊本弁を勉強しておかげで、「三十三年の夢」は完璧におかれます。会話なんかには熊本弁や熊本の

ます。出て行くために一番いいのがポランテニアとしてでていってほしい。青年海外協力隊だけではなく、ボーイスカウトとか日本キリスト教海外医療協力会とか、民間の組織もあるから、そういうので若い時の何年かを外国で人様に奉仕して暮すのはいいと思えますね。そういう風潮みたいなものが熊本にできたらこれも日本の中で大変ユニークな存在になるだろうと思っ

よく熊本の人は「モッコス」で組織をつくるのがへたで、すぐ俺が俺といばりたがる。ポランテニアなんというのは俺が俺という気がないといけないかもわかりませんね。一人で苦労する面がありますからね。組織につながって活動するというよりも一人で艱難辛苦と立向うんですから、案外熊本の人なんかいいんじゃないんですか。

自主独立の人達というのは日本のためが一番大事なものですから、おおいにやってください。私も青年海外協力隊の運営委員の一人ですからよろしく願います。

故郷のシンボル

熊本からは移民も多いそうですが、私がハワイで驚いたのは、熊本城を形どった教会があるんですよ。宇土橋とい

俗語がいっぱいでできずが完璧にわかります。

面白いのは、滔天の研究家とか中国の現代史の専門家などが絶対にわからないところが一ヶ所あるんです。それは「長洲街道を北へ」という表現があるんです。長洲なんていうのは誰も知らないわけですよ。しかし、私は、ああ、あの有明海の海辺を長洲に行く道だなあと思っ

来年は「三十三年の夢」をアメリカの学者と英訳したのをだしますが、正確なものができると思っています。

滔天の研究をやったのが、熊本と第三回目の近づくでした。

最近はどういうわけか熊本に大変ご縁ができて、年に一度か二度は講演とか何かの用で伺うんですが、何うと同年兵連中が偉くなっていて、その連中が集るといってわけです。沢田知事とは去年お会いしました。私とほぼ同時代ですね、知事とは渡鹿の練兵場あたりで会ったんじゃないですかね。

知事がやっておられる「美しい熊本づくり」なんかいいですね、江津湖なんかきれいにしたら、中村汀女さんなんかも喜ばれると思います。

熊本らしい都市に

熊本みたくところで東京をまねした

すか、天守閣をまねたのがありますよ。日系の人達の教会です、キリスト教の、だから、熊本から移民した人達が故郷のシンボルとしてすぐ思い浮べたのはやはり、熊本城だったんでしょう。

東京から行った学者みたいなのが、エゲツないというわけですよ。私はそういうことを言うのがケンカランと思っ

ベーターベンを聞き、ピカソを見るような感覚で、ハワイで本当にどろまみれになって働いた人達を評して、熊本城をまねるのがピントがはずれているとか言うのは私がおかしいと思う。何十年と働いて故郷に縁のなかつた人達が、故郷のイメージとして熊本というすぐ思いつくかぶのが熊本城で、その熊本城を模した建物の中で礼拝を行う気持、そういう素直な気持をセンスがないとかいって笑うのは笑う方がおかしいと思っ

東京あたりで葉巻をくゆらし、ウイスキーをのみ、美術や芸術を論じている連中にはわからないものがあるんですね。それを我々は尊重しなければいけないと思っ